

# 学生の英文ライティング力向上の分析 その4： ルーブリックを用いた指導と「内容の質」を測る 自動採点システム導入によるライティングの変化

Analysis of Improvement in Students' English Writing Part 4: Changes  
in Writing after the Introduction of Rubric-Based Instruction and an  
Automated Scoring System for Measuring "Quality of Content"

三田 薫

英語コミュニケーション学科教授

霜田 敦子

英語コミュニケーション学科非常勤講師

## 抄録：

短期大学1年必修英語授業で、「内容の質」を含む「英文ライティング・ルーブリック」を配布して、それを繰り返し参照させながら指導を行った。さらに授業専用の「自動採点システム」を導入して学生に使用させた他、過去の学生の英文を典型事例として示した。その結果、事後のライティングテストでは、事前と比較して語数、順序を表すディスコースマーカー、その他のディスコースマーカー、be動詞エラー、because断片文エラー、for exampleエラー、Topic Developmentいずれにおいても、大幅な改善が見られた。学生アンケートでは、ルーブリック、自動採点システム、学生英文の典型事例としての先輩学生の英文のいずれにおいても、英文ライティング力向上のために有効に機能したと判断されるコメントが得られた。

## Summary：

In a required first-year English class at a junior college, we distributed an "English Writing Rubric" that included a "Quality of Content" section and instructed students by repeatedly referring to it. In addition, an "automatic scoring system" for the specific purpose in class was introduced and used by the students. Also, past students' English writing was shown as an exemplar. As a result, the post-test showed a significant improvement compared to the pre-test in word count, discourse markers, be-verb errors, because-fragment errors, for example errors, and Topic Development compared to the pre-test. In the student questionnaires, the rubric, the automatic scoring system, and the exemplars of past students' English writing were all recognized as effective in improving English writing skills.

キーワード：第2言語ライティング，パラグラフ・ライティング，becauseの断片文エラー，for exampleエラー，トピックの展開，ディスコースマーカー，ループリック，形成的評価，フィードバック，典型事例

Keywords: L2 Writing, Paragraph writing, Because fragment error, For example error, Topic development, Discourse marker, Rubric, Formative assessment, Feedback, Exemplar

## 1. はじめに

本稿は，日本人学生特有の弱点に絞った指導法を試みた初級学生のライティング力向上の実証研究（三田&霜田，2021a, 2021b, 2022a, 2022b）をもとに，新たにライティング評価のためのループリックおよび評価項目の一つである「内容の質」を測る自動採点システム（三田&霜田，2023）を指導に取り入れた授業の実践報告である。本稿の調査対象者は，短期大学必修英語科目 Integrated English<sup>1)</sup> を履修する1年生である。

ループリックとは，評価水準である「尺度」と，尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価ツールのことである。これについて中央教育審議会（2013）の用語集では，「記述により達成水準等が明確化されることにより，他の手段では困難な，パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ，評価者・被評価者の認識の共有，複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。」（p.5）と解説している。

ループリック研究はアメリカで盛んにおこなわれ，米国 AAC&U（Association of American Colleges & Universities）では2007年からVALUE（Valid Assessment of Learning in Undergraduate Education：学士課程教育における妥当な学習評価）プロジェクトを開始する等，複数機関間で共通に活用することが可能な指標の開発が進められているという（松下，2014）。日本においてループリックが評価法として提示されたのは，2008年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」からである（吉田，2011）。成績評価について，答申は「個々の教員の裁量に依存しており，組織的な取り組みが弱いと指摘されてきた。従来そのままでは，大学全入時代の学生の変容に際し，学生確保という経営上の要請も相まって，なし崩し的に安易な成績評価が広がるおそれがある。」（p.26）とし，改革の方向として，「教員間の共通理解の下，各授業科目の到達目標や成績評価基準を明確化するとともに，GPAをはじめとする客観的な評価システムを導入し，組織的に学修の評価に当たっていくこと」（p.26）を求めている。引き続き2013年8月に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学～」では，ループリック評価が，プログラムの効果検証のみならず，個々の授業の総括的評価や形成的評価<sup>2)</sup>にも積極的に活用が図られる必要性が指摘されている（中央教育審議会，2013）。

本稿では，三田・霜田（2022b）の研究に加えて，新たな試みとして「英文ライティング・

ループリック」を授業で導入し、さらに三田・霜田（2023）で紹介した英文ライティングの「自動採点システム」を用いて学生自身に作成中の英文をチェックさせたことの効果を検証する。本研究で英文ライティングのループリックを導入することになった主な理由は、1）評価基準の明確化により学生の学習意欲を高める、2）英文ライティングの「内容の質」という定性的な評価について教員間での評価基準を標準化することである。これは中央教育審議会の解説と重なる。第2節ではループリック及び自動採点システムのフィードバックに関する先行研究を紹介し、第3節でリサーチクエスション、第4節で調査方法、第5節で調査結果を述べ、第6節で考察を行い、第7節でまとめる。

## 2. 先行研究

ループリックの形成的評価としての使用が、パフォーマンスの改善に及ぼす要因を調査した Panadro (2013) は、図1で示すように、(a) 評価の透明性、それによる (b) 生徒の不安の減少、(c) フィードバック過程の援助、(d) 自己有能感の向上、(e) 自己調整の援助という5つの要素すべてが間接的に生徒のパフォーマンスの改善につながるとして、ループリックの効果とループリックを使用した多様な指導法の可能性を指摘している。

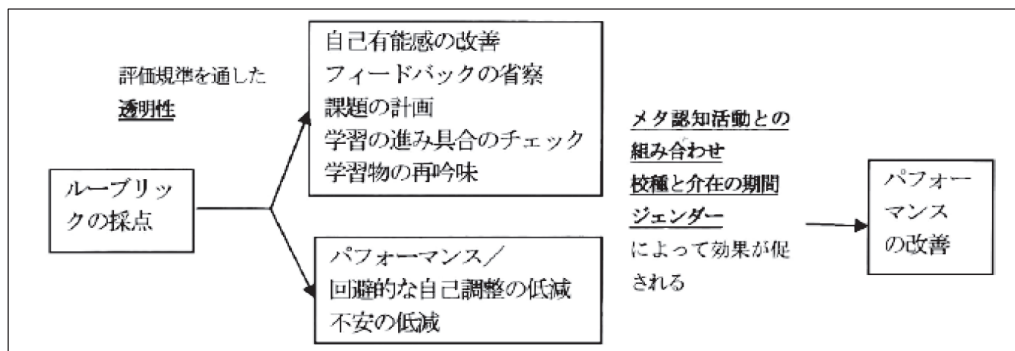


図1 ループリックとパフォーマンス改善のモデレーション効果  
(安藤 2014, p.10; Panadro 2013, p.139 の翻訳)

アメリカの学士課程教育で研究と活用が進められているループリック評価であるが、現在日本においては十分に浸透しているとは言い難い。そうした中で、日本においても、ライティングやレポートといったパフォーマンスの評価においては、独自のループリックの導入を試み、その効果を検証し課題を指摘する研究が行われている（江口, 2012; 坂本, 2019; 丹原他, 2020; 平林, 2016; 脇田, 2016）。ループリック評価の導入に関する今後の課題としては、授業で実践する担当教員が授業の目的や学習者のレベルなどを把握した上で、科目に適応したループリックを作成することが望ましいこと、学習者にループリックを提示する時期は、課題提示と同時が望ましく、それによって学習者は評価の指標を参照しながら自己学習することが可能

となるということが示唆されている(脇田, 2016)。坂本(2019)は、フィードバックを重視した自由英作文のルーブリックを考案、検証を行い、ルーブリックが学習促進機能を果たすと結論づけている。一方で坂本は教員アンケートの結果から、研究に用いたルーブリックの使いにくさが作業効率を低下させていることを明らかにし、ルーブリックの実行可能性には課題があったとしている。ルーブリックに学習促進機能があるにもかかわらず、その使いにくさが普及を妨げているという指摘は、今後のルーブリック開発において留意すべき課題であろう。

次にルーブリックのフィードバックとしての機能について掘り下げていきたい。フィードバックとは、評価結果や情報を学習者に提供する行為のことであり、形成的評価の要の役割を果たすものと位置付けられている。フィードバックが学習改善に結びつくためには、学習者の現在の到達度合いとともに、目標と現状の間どの程度の差があり、その差を埋めるためにはどのような行動が必要なのが情報として示される必要がある(西岡他, 2015)。本研究ではライティングの「内容の質」を測る自動採点システムを授業用に構築し、モデルとなるサンプル英文をフィードバックとして提示することの効果の検証を試みている。そのため、以下では主に自動採点システムにおけるフィードバックに関する研究に焦点を当てていく。

小林・石井(2019)は、ライティングの自動採点システムは評価判定のみならず、学習者へのフィードバックの役割が重要であるとする。すなわち自動採点システムのフィードバックは即時に行われるため、学習者が自らの作文を加筆、修正するモチベーションは高く維持されるとしている。さらに、教師が自動採点システムのフィードバックを受けて修正された作文を点検する場合と、自動採点のフィードバックなしに1から学生の作文を読んで修正する場合を比較すると、前者ではそれに費やす時間が大幅に削減されるため、教師は作文の構成や内容に関するフィードバックにより集中することができることを、自動フィードバックの利点として挙げている。石井・近藤(2020)も、自動採点システムを教室内で利用する目的の一つとして、「自動採点システムが算出するフィードバックにより学習者の作文の質を向上させる」(p.125)ことを挙げている。

日本において既存のライティング自動採点システムを大学生のライティング指導に取り入れた研究としてはIwanaka(2016)、岩中(2017)、齊藤(2017)がある。Iwanaka(2016)、岩中(2017)は、日本人大学生の英作文に対し、自動採点プログラム Criterion@ によるフィードバックと教師が作成したコメントの両方を提供した。その結果、教師のコメントのみの場合と比較して書き直したライティングの総語数が増え、全体的な評価が上がったと報告している。さらに岩中は文法やメカニクスといった英文の質に関する項目に自動採点システムを取り入れることで、教師は英作文の内容に関するフィードバックに集中できると主張する。ただし、英語で書かれた評語やコメントを自分で理解し、自らのライティングを改善するだけの英語力を持たない学生に対しては、効果がなかったという指摘もしている。

齊藤(2017)は、2016年に実用化された自動添削システム Write & Improve (ケンブリッジ大学出版局、ケンブリッジ大学英語検定機構とケンブリッジ大学が共同開発したもので、オンライン上で無償提供されている)のフィードバックについて検証し、これを使用した学生

は、ライティング能力、英語学習意欲の向上という点で一定の効果をあげたと報告している。そして、自主学習が難しいとされるライティングで手軽に練習できるツールとして自動採点システムが持つ教育的価値を高く評価している。その一方で、Write & Improve のフィードバックは、エラーの直接訂正（直接フィードバック）ではなく、誤りを含んだ文を指摘する（間接フィードバック）に留まるため、具体的なフィードバックを要望する学生が多かったことを同時に報告している。しかし間接フィードバックにメリットがないわけではない。Write & Improve のフィードバックが間接フィードバックであったからこそ、学習者は自分の作文を何度も見直し、試行錯誤を重ねながら、改善を目指すことができた点も指摘している。フィードバックの形態は、学習者の英語力に合わせることでより効果的に機能することが読み取れる。

自動採点システムのフィードバックと教師によるフィードバックの長所と短所を Dikli (2010) は以下のように指摘する。教師によるフィードバックは、「短くより焦点が絞られ個人に合わせたものである」という長所があるものの、「疲労の影響があり、主観的で大量に処理するには時間がかかり、一貫性のあるフィードバックは難しい」という欠点がある。一方、自動採点システムによるフィードバックは、「疲労なく、一貫性のあるフィードバックを大量に瞬時にフィードバックできる」長所があるものの、「一般的、冗長で、誤ったフィードバックを与える可能性がある」という短所を指摘している。そのため Dikli は、自動採点システムが ESL や EFL の生徒のニーズを満たすにはまだ成熟しておらず、今後は英語を母国語としない学生に対するフィードバック機能を改善する必要があると述べている。Weigle (2013) も Dikli と同様に、全般的に自動添削システムのフィードバックの精度は高まっているが、誤りの誤検出や検出漏れを減らしていくことが今後の課題の1つであると指摘している。その上で Weigle は、生徒のライティングのうち測りたい項目を絞って、商業ベースではない自動評価ツール（web ベースのツール）を導入することを提案している。

ライティングの自動採点システムにおけるフィードバックのマイナス面を指摘する声もある。Stevenson et al. (2014) は、自動フィードバックが学生のライティングのスキル向上よりもむしろ、学生をテスト戦略向上に向かわせる、すなわち自動採点システムの基準に合わせるために学習者が自分のライティングを調整する場合があるとしている。同様に、Li, Link, and Hedleheimer (2015) も、自動採点システムは ESL ライティングに大きな可能性を持つ一方で、自動フィードバックに関しては、学生の注意を内容の展開から形式的なものに向けることで、学生のライティング行動に負の影響を与える可能性があることを指摘している。

このように、自動採点システムのフィードバックに関する研究から、フィードバックには様々な効果と問題があることが明らかになっている。本研究では、独自に設けたライティング・ルーブリックの項目の一つである「内容の質」に絞った自動採点システムを開発し、学生のライティングが測れるようにした (cf. 三田 & 霜田, 2023)。また自動採点システムで出力される評価得点と同時に表示される自動フィードバックとして、過年度の学生が同じトピックで作成した英文のうちの優れたものを、モデル英文（典型事例）として提示する機能を出力画面に付加した。この自動フィードバックでは、学生は自分の書いた英文の評価得点（レベル1～4）と

同時に、評価得点の一つ上のレベルのモデル英文を見ることができ、自らの英文を向上させるためのヒントを学ぶことができるようになっていく。自動採点システムが評価得点のみならず、過年度の優れたモデル英文をフィードバックとして付けることになった背景には、学生のリクエストがある。本研究の前年度に自動採点システムの試作版を学生に使用させた結果、「見本になる英文が見たい」という学生の要望が多く見られた。今回使用した「内容の質」を測る自動採点システムでフィードバックとして用いたモデル英文は「パフォーマンス評価研究」における「典型事例 (exemplars)」の概念と一致する。以下、典型事例の研究について概観する。

典型事例 (exemplars) とは、質または能力のレベルを定めた水準の典型的なものとなるように選ばれた重要な例と定義され (Sadler, 1987)、パフォーマンス評価において各学習者が目指す見本として自己評価力を高める機能があるとされている。岩田 (2020) は、「自己評価力」について「評価基準を理解し、それを自分のパフォーマンスに適用することで、目標とのギャップを適切に把握する力」と定義している。さらに岩田 (2022) は、パフォーマンスの「自己評価」、「ピア評価」、「教員の用意した典型事例の評価」の3つの指導法を比較し、これら複数の指導法が相互補完的に機能することを指摘している。本研究でフィードバックとして採用した優れたモデル英文は「教員の用意した典型事例」にあたるもので、学生に目標とのギャップを評価する機会を提供するものである。丹原他 (2020) は、教員の用意した典型的なパフォーマンスの事例を指導に用いることで、学生は「評価する」だけでなく「分析する」などの活動も期待できると指摘している。一方 Rust et al. (2003) は、典型事例評価活動で求められている水準を理解することはできても、必ずしも適切に自己評価ができるようになるとは限らないと論じている。これらの指摘から、ライティング指導の中で典型事例評価法の有効性を高めるためには、モデル英文や自分の英文を自己評価できる土台としての英語力が前提条件であることを改めて認識される。

### 3. リサーチクエスチョン

- (1) ライティング評価ルーブリックの導入は、前期始め・後期末の英文にどのような違いをもたらすか。
- (2) ライティング評価ルーブリックと、ライティングの内容の質を測る自動採点システムのサンプル英文のフィードバックについて、学生はどのように感じたか。
- (3) 学生の英語を書く自信はどのように変化したか。

## 4. 調査方法

### 4. 1. 調査対象者

本稿の調査対象者は、短期大学必修英語科目 Integrated English を履修する1年生のうち、入学前 (3月) に実施した GTEC Academic を受検し、さらに前期始め (4月) と後期末 (12

月あるいは1月)の2回のライティングテストを受験した学生のうち127名である。対象学生の学科内訳は、日本語コミュニケーション学科62名、英語コミュニケーション学科65名である。学生の大多数の英語レベルはCEFR A2レベルである(GTEC Academic2技能試験 Listening & Readingの結果に基づく)。

#### 4. 2. 調査内容と調査項目

##### 4. 2. 1. ライティングテストの実施方法,トピックと指示

ライティングテストは、前期始めと後期末の2回とも教室で実施した。具体的には学習管理システム(LMS)のmanaba ver.2.95(朝日ネット)を用いて受験させた。

ライティングテストの所要時間はブレインストーミングを含めて15分間であり、テスト用画面には、ライティングの入力スペースだけではなく、受験者個人のブレインストーミング内容を記録するスペースも設けた。ライティングテストのトピックは「好きな場所」である。エッセイの指示文は以下の通りである。

##### ライティングテストトピック「好きな場所」

自分の行ってみたいところを決め、その場所と、行きたい理由を3つ書いて下さい。海外でも国内でも結構です。以下の表現で始めてください。

The place I want to visit most is (            ). There are three reasons.

##### 4. 2. 2. 調査項目の設定

リサーチクエスト(1)に関わる調査では、学生の前期始め(4月)と後期末(12月あるいは1月)のライティングテストの結果について、「ライティングテストのループリック」(Appendix II)に含まれる各項目について比較した。

##### 4. 2. 3. 分析方法

リサーチクエスト(1)については、調査対象学生の1回目(前期始め,4月)と2回目(後期末,12月あるいは1月)のライティングテストの英文を、以下の7項目で調査した。

項目1. 1回目,2回目のライティングにおける平均語数

項目2. 順序を表すディスコースマーカーの有無

エッセイの基本構成のうち、Body(本論)部分でsupporting sentenceの順番を示すマーカー(First, Second, ThirdあるいはFinally)が、「無い、または不完全」なものを「0」、 「すべて有る」ものを「1」とした。

項目3. その他のディスコースマーカー

以下の表1の主要なディスコースマーカーのうち、「時間,順序」の表現以外のマーカーの数である。

表1 主要なディスコースマーカ

種類	使用頻度の高い表現	同様の特徴的表現
反意的	However,	Yet, Nevertheless,
対照の導入	While	Instead, On the other hand, In contrast, On the contrary,
譲歩	Although	Though, Even though
付加的	Moreover, Also,	Furthermore, In addition, Besides,
例示	For example,	For instance, such as
時間, 順序	Now First Second Third Finally,	Nowadays, Recently, Firstly, First of all, At first, Then, After that, At last,
理由	as	because, since
因果的	Therefore Consequently	Thus, accordingly, So, As a result,
結論, まとめ	In conclusion, In summary, For these reasons,	To conclude, To sum up,
代替を表す	Otherwise,	
強調	Especially, In particular,	Of course,

(cf. 中谷, 2020, p.36)

## 項目4. 「be 動詞エラー文の数」

以下の例に見られるような3種類の be 動詞エラー文の数をカウントする.

1. Be-basic: "The place is a lot of visitors." "New Year is busy."
2. Heavy-subject: "I like Yokohama Places is Minato Mirai."
3. Serial-verb: "Takeshi was lived in Nerima."

## 項目5. 「because の断片文エラーの数」

以下の例に見られるような because の断片文エラーの数をカウントする.

"I want to go to Hawaii. Because I want to study English there."

## 項目6. 「for example エラーの数」

以下の例に見られるような for example 文エラーの数をカウントする.

"Hawaii has many delicious foods. For example, pancakes and loco moco."

## 項目7. 「Topic Development」

Detail 文 (詳しい説明や具体例を挙げて主張に説得力を与える文) の有無により5段階で評価する。以下は、それぞれの段階の評価を受けた学生の英文である。文法エラーをそのまま残してある。



1) Detail 文が無いもの「Level 0」例

The place I would like to visit most is Kyoto.

There are three reasons.

First, Kyoto have a many historic place. I like Kiyomizu-temple very much.

So, I will see beautiful architecture.

Second, I love mattcha.

1) Detail 文が無いもの「Level 1」例

The place I would like to visit most is France.

There are three reasons.

First, I want to eat France bread.

Second, I want to see castle.

Finally, I want to talk France people.

2) Detail 文が少しあるが内容が限定的なもの「Level 2」例

The place I would like to visit most is Korea.

There are three reasons.

First, I like Korea food because I like spicy food. I especialy like kimuchi ramen!

Second, I want to go to K-pop idol concert. I think K-pop idol dance is more cooler than J-pop idol.

Last, I want to go to cafe. Korea has cutie cafe so I want to take a picture.

3) Detail 文が複数ありトピックが発展し内容が深まったと考えられるもの「Level 3」

The place I would like to visit most is Fukuoka. There are three reasons.

First, I can eat many delicious foods in Fukuoka. For example, I want to eat Mizutaki and Mentaiko. In addition, I want to eat seafood in that only locals know in Nakasu. Second, the famous anime festival was held in city of Kitakyusyu. I want to went to city of Kitakyusyu because my favorite voice actor joined the event. Third, I want to went to starbucks coffee at dazaifu tenmangu. The wood interior design is very artistic and valuable. So, I want to see the design. For these reasons, I would like to visit Fukuoka.

4) 「3」の中で特に優れているもの「Level 4」

The place I would like to visit most is Nagoya. There are three reasons. First, I want to visit Ghibli Park, witch opened this November. I am a big fan of

Ghibli movies. Especially, I like "My Neighbor Totoro". In Ghibli Park, the buildings from that movie are recreated. Second, I want to go to eat a morning meal. Nagoya is famous for dishes made with miso, such as Misokatsu, but it is also famous for its many coffee shops, where you can enjoy cheap and delicious food in the morning. At a coffee shop, I would like to try the Ogura toast. In addition, I would like to try the Hitsumabashi. Third, I want to visit my brother. I have an older brother who is five years older than me. Since this year, he has been living apart due to his work. Since I rarely have a chance to see him, so I would like to surprise him by going to see him. For these reasons, I would like to visit Nagoya.

リサーチクエスチョン (2) については、学生の学期末アンケートの自由回答の質的なデータについて、自由回答の頻出語として抽出された単語同士の関係性を可視化するために共起ネットワーク分析を行った。テキストマイニングには、KH Coder 3を使用した<sup>3)</sup>。リサーチクエスチョン (3) については、学生の後期末アンケートの選択式回答のデータを集計した。

## 5. 調査結果

5.1 節から 5.7 節では、「4. 調査方法」に従って得られた調査結果を示す。以下、語数、順序を表すディスコースマーカー、その他のディスコースマーカー、主語動詞エラー、for example エラー、because エラー、Topic Development について、今回の調査対象者 127 名の事前（前期始め、4月）、事後（後期末、12月あるいは1月）の結果を報告する。

5.8.1 節では、ループリック、自動採点システム、過年度の先輩の英文についての学生アンケートのテキストマイニング分析の結果を紹介する。5.8.2 節では「英文を書くことの自信」についての学生アンケートの結果を報告する。

### 5. 1. 語数

事前事後のライティングテストの総語数、平均語数と標準偏差を表 2 に示した。前後語数比は 2.38 倍である。

表 2 ライティングテストの事前・事後の総語数と平均語数 (n=127)

	総語数	平均語数	SD
事前	6074	46.7	16.2
事後	14485	111.4	36.3

語数についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(126) = 21.607, p < .001$ )。

## 5. 2. 順序を表すディスコースマーカー

「順序を表すディスコースマーカー」の事前事後のライティングテストでの有無の実数を表3に示した。

表3 順序を表すディスコースマーカーの有無 (n=127)

	順序を表すディスコースマーカー無し	順序を表すディスコースマーカー有り
4月	33	94
1月	3	124

事前事後の順序を表すディスコースマーカーの有無についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(126) = 6.243, p < .001$ )。

## 5. 3. その他のディスコースマーカー

「その他のディスコースマーカー」の各ライティングテストでの出現数ごとのエッセイ数、総数と平均を表4に示した。

表4 「その他のディスコースマーカー」の出現数ごとのエッセイ数、マーカーの総数と平均 (n=127)

	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	マーカーの総数	平均
事前	82	41	4	0	0	0	0	49	0.39
事後	12	26	41	20	18	7	3	293	2.31

例えば事前では「その他のディスコースマーカー」を1つも含まないエッセイが82あったのに対し、事後では12本に減っている。「その他のディスコースマーカー」の出現数についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(126) = 14.442, p < .001$ )。

## 5. 4. be 動詞エラー

各ライティングテストで「be 動詞エラー」が出現したエッセイと出現しなかったエッセイの数を表5に示した。

表5 be 動詞エラーのあったエッセイとなかったエッセイの数 (n=127)

	エラー有りエッセイ	エラー無しエッセイ	合計
事前	33	94	127
事後	28	99	127

「be 動詞エラー」の出現エッセイ数は事前事後でほとんど変化がない。しかし100語あたりの「be 動詞エラー」数を比較したところ、表6の結果となり、また事前事後の  $t$  検定の結果

は、1%水準で有意であった ( $t(126) = 3.014, p < .01$ ).

表6 エッセイの総語数, be 動詞エラー総数, 100 語あたりの be 動詞エラー平均 (n=127)

	総語数	be 動詞エラー総数	100 語あたりの be 動詞エラー平均
事前	6074	40	0.68
事後	14485	33	0.31

### 5. 5. because の断片文エラー

各ライティングテストで「because 断片文エラー」が出現したエッセイと出現しなかったエッセイの数を表7に示した。

表7 because 断片文エラーのあったエッセイとなかったエッセイの数 (n=127)

	エラー有りエッセイ	エラー無しエッセイ	合計
事前	16	111	127
事後	24	103	127

because の断片文エラーの出現エッセイについての事前事後の  $t$  検定の結果は、有意ではなかった。これは事前で because を全く使用しないエッセイが多く、それがエラー無しに含まれていたことが影響していると考えた。そこで because の使用数と、その中の because 断片文エラー数を調べたところ、表8と図2の結果となった。

表8 because 断片文エラーの because 使用数に対する割合 (n=127)

	because の使用数	because 断片文エラー数	Because 断片文エラーの割合
事前	31	20	65%
事後	79	18	23%

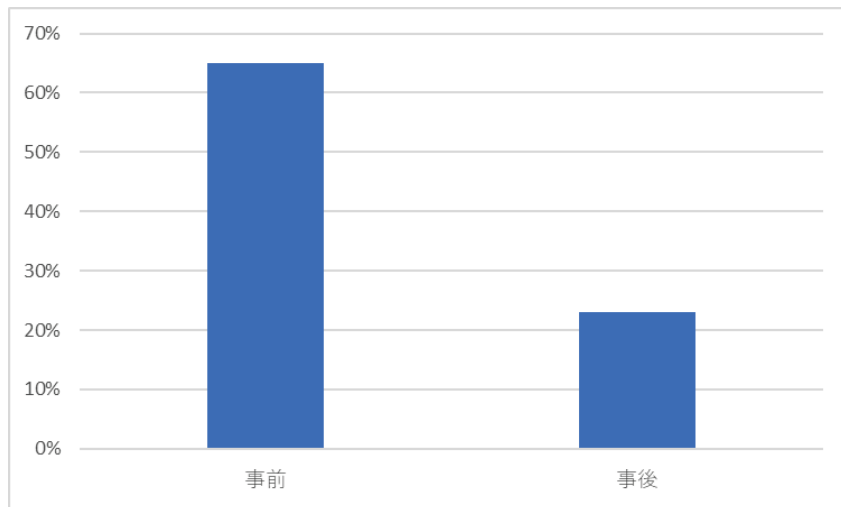


図 2 because 断片文エラーの because 使用数に対する割合

### 5. 6. for example エラー

各ライティングテストで「for example エラー」が出現したエッセイと出現しなかったエッセイの数を表 9 に示した。

表 9 for example エラーのあったエッセイとなかったエッセイの数 (n=127)

	エラー有りエッセイ	エラー無しエッセイ	合計
事前	15	112	127
事後	20	107	127

for example 文エラーを含むエッセイについての事前事後の *t* 検定の結果は、有意ではなかった。これは事前で for example を全く使用しないエッセイが多く、それらがエラー無しに含まれていたことが影響していると考えた。そこで for example の使用数と、その中の for example エラー数を調べたところ、表 10 と図 3 の結果となった。

表 10 for example エラーの for example 使用数に対する割合 (n=127)

	for example の使用数	for example エラーの数	for example エラーの割合
事前	16	14	88%
事後	59	18	31%

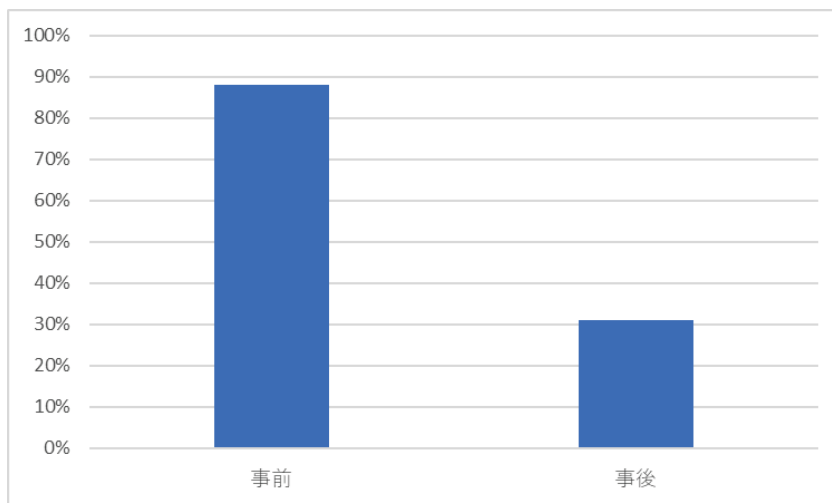


図3 for example エラーの for example 使用数に対する割合

## 5. 7. Topic Development

各ライティングテストの「Topic Development」の評価レベルごとのエッセイ数を表11および図4に示した。

表11 「Topic Development」の評価ごとのエッセイ数 (n=127)

	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	合計
事前	22	34	67	4	0	127
事後	4	3	18	40	62	127

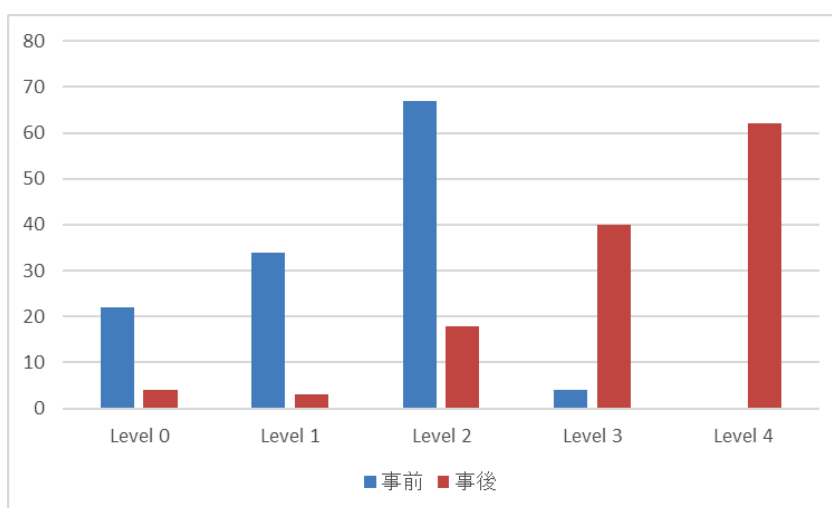


図4 Topic Development の事前事後のレベル別エッセイ数

Topic Development についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(126) = 20.043, p < .001$ ).

## 5. 8. 学生アンケート結果

後期末(12月あるいは1月)に自由回答式と選択回答式の学生アンケートを行った。調査対象者127名のうち126名が回答した。

### 5. 8. 1. 「ループリックと自動採点システムのフィードバック」についての学生のアンケート分析

共起ネットワーク分析では、丸 (node) の大きさが大きいほどその単語が多く出現していることを表している。共起ネットワークの中に現れる結びつきの強さを表す各サブグループの原文も抜粋した。アンケートの質問は以下の4問である。

- 問1. ライティングテストのループリックが役に立ったと思う人は、どのような点で役に立ったかを書いてください。役に立たなかった人は、無しと書いてください。
- 問2. ライティングテストのループリックについての感想を自由に書いてください。
- 問3. ライティングテストの自動採点システムについての感想を自由に書いてください。
- 問4. 過年度の先輩の英文サンプルについての感想を自由に書いてください。

#### 5. 8. 1. 1. 「ループリックが役に立ったと思う点」

質問1「ライティングテストのループリックが役に立ったと思う人は、どのような点で役に立ったかを書いてください。役に立たなかった人は、無しと書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は1,743語(139文)であった。抽出語の頻出語上位5件は「書く」(23回)、「英文」(19回)、「ディスコースマーカー」(17回)、「エラー」(16回)、「文法」(15回)であった。

KH Coderの「分析に使用する語の取捨選択」で、「ディスコースマーカー」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択したところ、ループリックの役だった点に関して6つのサブグループが形成された(図5)。

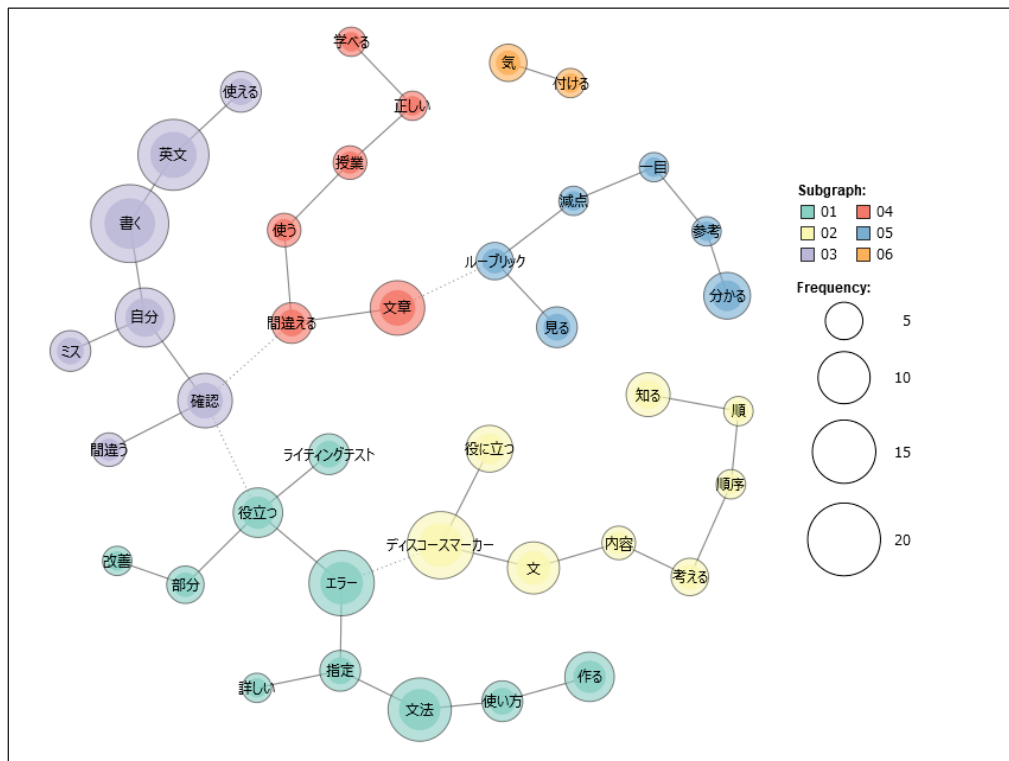


図5 「ルーブリックが役に立ったと思う点」自由回答の共起ネットワーク

ルーブリックの役に立った点について、1つ目のサブグループでは、「文法」、「指定」、「エラー」、「役立つ」、「ライティングテスト」が示されていることから、学生は指定文法エラー項目がライティングテストに役立ったと感じていることが推測される。2つ目のサブグループには「ディスコースマーカー」、「役に立つ」、「文」、「内容」、「考える」、「順番」が示されており、ルーブリックのディスコースマーカー項目が文の内容の順番を考えるうえで役に立ったとされていることがわかる。3つ目のサブグループでは「書く」、「英文」、「自分」、「ミス」、「確認」、「間違える」が示され、学生はルーブリックにより自分の書いた英文のミスを確認することに役だったと推測される。4つ目のサブグループには「文章」、「間違える」、「使う」、「授業」、「正しい」、「学べる」が示され、間違えて使っていた文章がルーブリックを使って授業で正しく学べることに役だったことがわかる。5つ目のサブグループには「見る」、「ルーブリック」、「減点」、「一目」、「参考」、「分かる」が示されていることから、ルーブリックを見ると減点箇所が一目で分かることが役に立ったことが推測される。6つ目のサブグループには「気」、「付ける」が示され、ルーブリックによって気を付けることを意識できたことを役立ったと感じていることがわかる。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。



1. 指定文法エラーをパッと確認したいときに便利だった。また、ライティングテスト前日に必ず使わなければならない表現での勉強の際に使うことでわからないことをなくすことができた。
2. 英文の内容を充実させようと努力できた。ディスコースマーカーをできるだけ使えるような文章を考えられるようになった。
3. ミスしがちな文法を的確に取り上げわかりやすく説明が書かれていた。
4. 自分が作った文章と比較して、使い方があっているのか間違えているのか確認できたから。
5. 評価観点と減点される点数が書かれていて、わかりやすかった。ループリックを見ながら自分の英文に減点される場所がないか、一目で確認できたので良かった。
6. ディスコースマーカーの使い方や、文法を作るうえで気を付けるべきことがよくわかりやすかった。

#### 5. 8. 1. 2. 「ループリックについての感想」

質問2「ライティングテストのループリックについての感想を自由に書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は2,250語（145文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「書く」（32回）、「英文」（24回）、「ループリック」（18回）、「見る」（16回）、「使う」（13回）であった。

感想に使われる一般的な語「思う」をKH Coderの「分析に使用する語の取舍選択」で使用しない語に指定し、「ディスコースマーカー」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択し共起ネットワークを作成したところ、ループリックの感想に関して6つのサブグループが形成された（図6）。

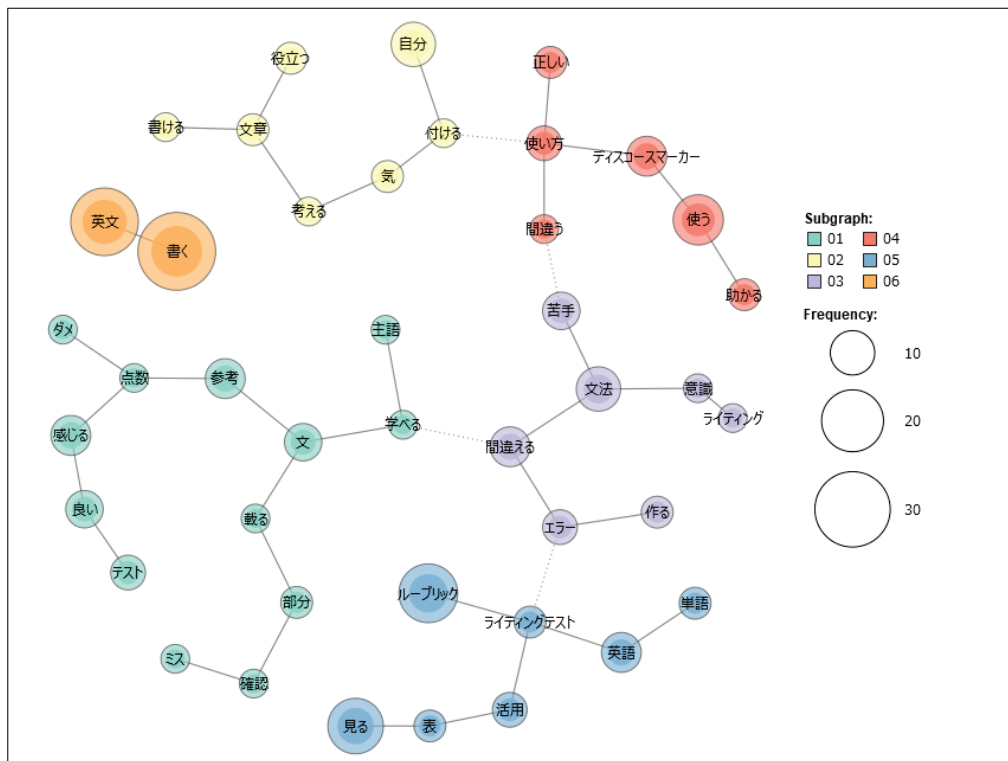


図6「ループリックについての感想」自由回答の共起ネットワーク

ループリックの感想に関しては、1つ目のサブグループでは、「参考」、「点数」、「ダメ」、「文」、「載る」、「部分」、「確認」、「ミス」が示され、ループリックに点数につながるポイントが載っているためダメな文を確認することができたと感じていることが推測される。2つ目のサブグループには「自分」、「付ける」、「気」、「考える」、「文章」、「役立つ」が示されており、ループリックによって自分で文章を作る際に気を付けることがわかり役に立ったと感じていることがわかる。3つ目のサブグループでは「間違える」、「エラー」、「作る」、「文法」、「苦手」、「意識」、「ライティング」が示され、ライティングに苦手意識を持っていた学生がループリックによって間違えやすいエラーを知ることができたと感じていることが推測される。4つ目のサブグループには「使う」、「助かる」、「ディスコースマーカー」、「間違う」、「正しい」が示され、ループリックにディスコースマーカーの正しい使い方と間違った使い方が書かれているので助かると感じていることがわかる。5つ目のサブグループには「ループリック」、「ライティングテスト」、「英語」、「単語」、「活用」、「表」、「見る」が示されていることから、ループリックを見てライティングテストに活用したことがわかる。6つ目のサブグループには「書く」、「英文」が示されていることから、ループリックが英文を書く上で役に立ったことが推測される。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. 点数や加点になるディスコースマーカーなどがいろいろ載っていて参考になり、どういった文がダメなのかがわかりました。
2. 文法におけるエラーが実際に書いてあることで自分が文法を作るときに間違えないように気を付けることができるようになったため、利用しやすかった。
3. ライティングに対して苦手意識があったが対策をすることで間違いやすい文法を知ることができ、そなえられた。
4. 様々なディスコースマーカーの使い方がわかるだけでなく、間違った使い方もわかるようになっていたのが、とても助かった。
5. 表が見やすく、エラーの部分も載っているからライティングテストの時にたくさん見直して活用していました。
6. ルーブリックを見て英文を書くときに注意しなければいけない点を確認することができてよかった。

### 5. 8. 1. 3. 「自動採点システムについての感想」

質問3「ライティングテストの自動採点システムについての感想を自由に書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は2,539語（140文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「自分」（57回）、「英文」（32回）、「採点」（28回）、「書く」（15回）、「点数」「評価」「良い」（各14回）であった。

感想に使われる一般的な語「思う」をKH Coderの「分析に使用する語の取捨選択」で使用しない語に指定し、「自動採点システム」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択し共起ネットワークを作成したところ、ルーブリックの感想に関して7つのサブグループが形成された（図7）。

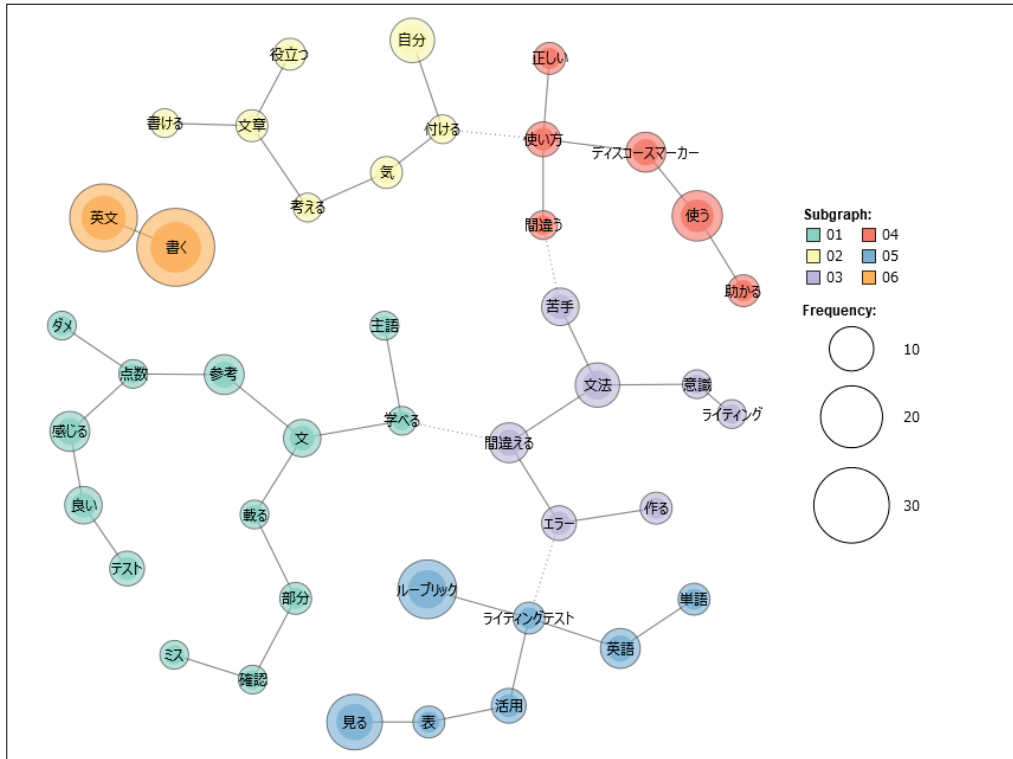


図7 「自動採点システムについての感想」自由回答の共起ネットワーク

自動採点システムの感想に関しては、1つ目のサブグループでは、「自分」、「英文」、「レベル」、「良い」、「点数」、「採点」、「自動」、「自信」、「書く」、「評価」、「文章」が示されていることから、自分の英文のレベルが点数で自動採点されることが書く自信となると感じたことが推測される。2つ目のサブグループには「スペル」、「ミス」、「指摘」、「間違い」、「修正」、「間違っ」、「役に立つ」が示されており、スペルミス等の修正に役に立ったと感じたことがわかる。3つ目のサブグループでは「直す」、「教える」、「役立つ」、「難しい」、「理解」、「システム」が示され、英文を直すうえで役に立った一方、システムを理解することが難しかったと感じていることが推測される。4つ目のサブグループには「ライティングテスト」、「内容」、「文法」、「感じる」、「知る」が示され、ライティングテスト後の自動採点システムで英文の内容と文法の改善ができたと感じていることが推測される。5つ目のサブグループには「分かる」、「簡単」、「文」、「考える」が示されていることから、自分が考えた文の評価が簡単にわかることが良かったと感じていることがわかる。6つ目のサブグループには「自動採点システム」、「使う」、「結果」、「出る」が示されていることから、自動採点システムを使ってすぐに結果が出るのが良かったと感じていることがわかる。7つ目のサブグループには「便利」、「足りる」が示されていることから、自分の足りない部分がわかり便利だと感じていることが推測される。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. 自動採点でいい点数をもらえるように努力できたし、いい点数をもらえると自信がつくようになった。
2. その場で間違えている箇所や、その他の言い回しなどを知ることができて、すぐに間違いを修正できるのでよかったです。
3. 自分の英文のどこが間違っているかを明確にできました。さらに、間違えた箇所をどう修正すればよいのかも分かり、英文を直すときにとても役に立ちました。
4. 自分が書いた文法が他者評価されることで、スペルミスに気づけたり、内容の改善を行うことができた。
5. 自分が考えた文に対して簡単に評価が出るのは分かりやすくていいなと思いました。
6. 結果がすぐに帰ってくるので、使いやすく楽しい。
7. 自分のどこが足りてないかすぐわかって便利だった。

#### 5. 8. 1. 4. 「過年度の先輩の英文サンプルについての感想」

質問4「過年度の先輩の英文サンプルについての感想を自由に書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は2,378語（148文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「英文」（44回）、「参考」（39回）、「書く」（33回）、「自分」（27回）、「先輩」（27回）であった。

感想に使われる一般的な語「思う」をKH Coderの「分析に使用する語の取捨選択」で使用しない語に指定し、分割される語「ディスコースマーカ―」と「英作文」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択し共起ネットワークを作成したところ、ループリックの感想に関して6つのサブグループが形成された（図8）。

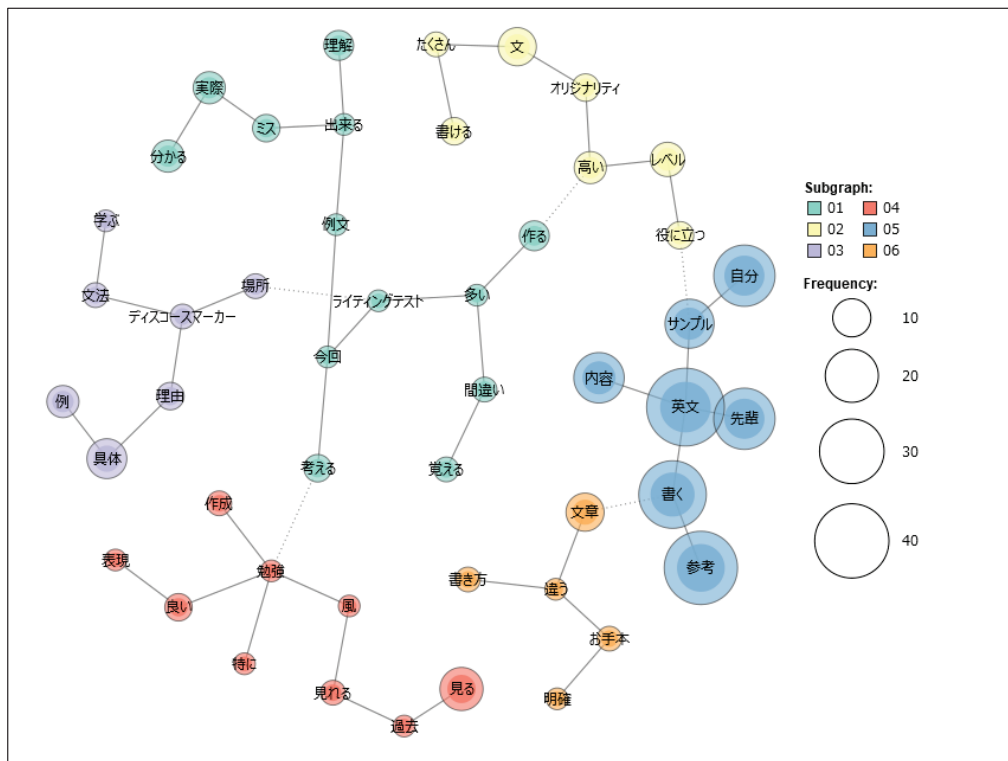


図8 「過年度の先輩の英文サンプルについての感想」自由回答の共起ネットワーク

先輩の英文サンプルの感想に関しては、1つ目のサブグループでは、「理解」、「出来る」、「ミス」、「実際」、「分かる」、「例文」、「今回」、「ライティングテスト」が示されていることから、今回のライティングテストで実際先輩の例文を見て理解できたと感じた事が推測される。2つ目のサブグループには「書ける」、「たくさん」、「文」、「オリジナリティ」、「高い」、「レベル」、「役に立つ」が示されており、先輩の英文の量とオリジナリティのあるレベルの高いサンプルが役に立ったことがわかる。3つ目のサブグループでは「具体」、「例」、「理由」、「ディスクマーカー」、「場所」、「文法」、「学ぶ」が示され、先輩の英文から、具体例や理由、ディスクマーカーの使い方、場所の選び方、文法などを学んだことがわかる。4つ目のサブグループには「見る」、「過去」、「勉強」、「作成」、「良い」、「表現」が示され、過去のサンプル英文を見て自分の英文を作成できることが良いことだと感じていることが推測される。5つ目のサブグループには「英文」、「先輩」、「書く」、「参考」、「内容」、「サンプル」、「自分」が示されていることから、先輩の書いた英文サンプルを参考に自分の英文の内容を考えたことがわかる。6つ目のサブグループには「文章」、「違う」、「書き方」、「お手本」、「明確」が示されていることから、先輩の異なる書き方のお手本によって書き方が明確になったことが推測される。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. いわば前例なので、とてもわかりやすいお手本になりました。模範解答とはまた違って、わたしたちと同じくらいの英文レベルだっただろう先輩方のサンプルなので理解するのも早かったように思います。
2. レベル4のサンプルは、文の量も多く、オリジナリティがあり内容の質が高かったので、英文を作る際によく参考にしました。ほかのレベルのサンプルも、ライティングテストの対策にとっても役に立ちました。
3. 場所や理由など、参考になった。また、上手なディスコースマーカーの使い方を学べた。
4. 点数が高い人の英文サンプルを見てこういう風には書けばもっと良くなるんだととても勉強になりました。
5. 先輩の例文をもとに今回の期末テストの筆記内容を考えました。自分の筆記内容を考える上で先輩の英文サンプルはすごく役立ちました。
6. いいお手本だった。自分もこのくらい書けるようになりたいという明確な目標ができた。

#### 5. 8. 2. 「英文を書くことについての自信」についての学生アンケート

事前・事後のライティングテスト終了後に、「英文を書くことについての自信」について、以下の設問でアンケートを行った。調査対象者127名中126名が回答した。

「英文を書くことについての自信はどのくらいありますか。」

1. 英文を書くことは苦手だし全く自信がない
2. 英文を書く練習をしてきたので少し自信がついている
3. 英文を書く練習を続けてきたので結構自信がついている
4. 英文を書く自信がつき、機会があれば書いてみようと思っている
5. 英文を書く自信がつき、自主的に英文を書くようになっている

表12および図9は「英文を書くことについての自信」についてのアンケート結果を示したものである。

表12 「英文を書くことについての自信」についての事前事後人数と割合

	事前人数	事後人数	事前割合	事後割合
1	96	35	76%	28%
2	26	61	21%	48%
3	1	11	1%	9%
4	3	16	2%	13%
5	0	3	0%	2%
合計	126	126	100%	100%

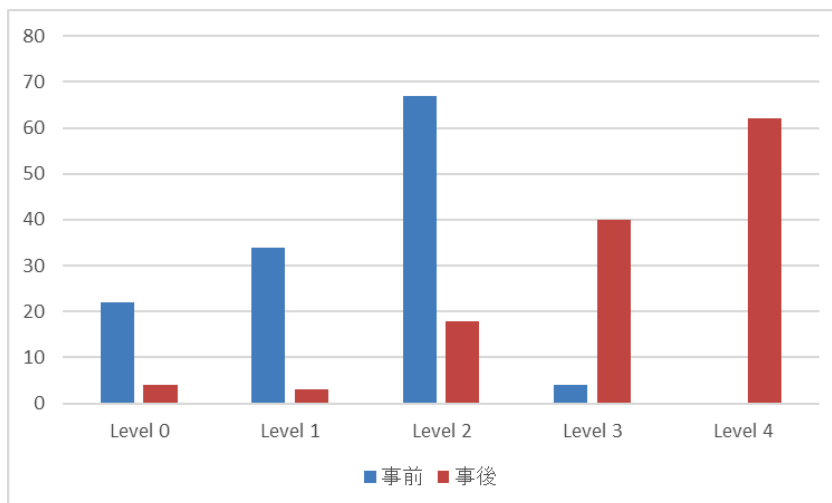


図9 「英文を書くことについての自信」についての事前事後回答数

## 6. 考察

短期大学1年生英語必修科目 Integrated English で2022年度に実施したライティングテストについて、前期始め・後期末の2回分のテスト結果を比較し分析を行った。

リサーチクエスチョン(1)「ライティング評価ルーブリックの導入は、前期始め・後期末の英文にどのような違いをもたらすか。」については、項目1から項目7について調査した。項目1(語数)については、表2のように事後の語数が事前に比べて2.38倍となり、0.1%水準で統計的に有意に増えている。三田・霜田(2021b)同様、後述する調査項目7の Topic Development での内容の展開力向上により、伝えたい内容が増えたことが総語数の増加につながったことが予想される。今後もトピックを展開する指導を継続していきたい。

項目2(順番を示すディスコースマーカーの有無)については、表3が示すように事後では97.6%の学生が使用し0.1%水準で統計的に有意に増えている。これはルーブリックや「一行日記 パラグラフ・エッセイライティング」で本論部分を3つのポイントに整理しそれぞれの始まりに First, Second, Third (Finally) という順番のディスコースマーカーをつける練習させたほか、ライティングテストの優れたサンプルの提示、さらに後期に行った Holiday Card と Girl Rising のエッセイ・ライティングで順番を示すディスコースマーカーの使用を指示した成果と考えられる。

「項目3(その他のディスコースマーカーの数)」については、表4が示すように、事後にマーカー総数では5.98倍となり、0.1%水準で統計的に有意に出現数が増加した。これは、ルーブリックや「一行日記 ディスコースマーカー」で論理表現を含む具体的なディスコースマーカーの使い方を指導した成果と考えられる。



「項目4」(be 動詞エラー)は、今回の調査対象英文では事前に以下の例が見られた。

Dishes are potatos.

Movie spots is a lot of places in England.

100語あたりの「be 動詞エラー」数を比較したところ、表6のように0.68から0.31に半減し、また事前事後の $t$ 検定の結果は、1%水準で有意であった( $t(126) = 3.014, p < .01$ )。この理由として、ループリックや「一行日記 be 動詞エラー」で、日本語と英語の違いの特徴をより明確に理解できるよう指導した事の他に、be 動詞エラーをライティングテストで減点対象とする「指定文法エラー」としたことにより、学生のbe 動詞エラーに対する意識が高められた可能性がある。

「項目5」(becauseの断片文)については、表8と図2に見られるように、because断片文エラーのbecause使用数に対する割合が、事前65%、事後23%と大幅に減少している。これはループリックや「一行日記 becauseの正しい使い方」で繰り返し指導を行っている成果と考えられ、学生の振り返りコメントにも、このエラーを理解できたというものが多い。しかし事後でも18件のbecause断片文エラーがあったことから、学生が頭では理解していても、必ずしも正しい英文が書けるわけではないことを示している。ライティングテストで英文の内容に意識が集中するあまり、無意識にこの間違いを犯している可能性がある。学生の事後ライティングテストには次のようなエラーが見られる。

First, I love Chibimaruko-chan. Because Chibimaruko-chan is the most popular character.

Finally, I want to go to a hot spring. Because, open air baths are my favorite.

こうしたエラーを克服し、意識しなくても正しい英文が書けるようにするためには、ループリックや一行日記の内容改善および繰り返しの練習が必要となるであろう。

「項目6」(for exampleエラー)については、for exampleの使用数と、その中のfor exampleエラー数を調べたところ、表10と図3のように、for exampleエラーの割合が、事前88%、事後31%と大幅に減少している。しかし完全に克服できていない。

for exampleは項目7のTopic DevelopmentのDetail文に該当する文を作成する際に多く使われている。for exampleエラーについてはループリックや「一行日記 for exampleの正しい使い方」で繰り返し指導を行っており、becauseの断片文エラー同様、学生たちは理屈では理解しているようだが、実際に英文を書く際には、無意識に書いてしまうようだ。例えば事後のライティングテストでも以下のようなエラーが見られる。

There are many famous sweets in France. For example, Macarons, Fondant Chocolate

and Mont Blanc.

The United Kingdom has many world heritage sites and famous figures. For example, "Big Ben" and "Westminster Abbey" as world heritage sites.

こうしたエラーを克服し、意識しなくても正しい英文が書けるようにするためには、becauseの断片文エラー同様、ループリックや一行日記の改善および繰り返し練習を行う必要があるだろう。

「項目7」(Topic Development)については、表11および図4で示すように、事後に0.1%水準でTopic Developmentが統計的に有意に上昇していた。エッセイの内容を深める指導としては、ループリックや「一行日記 Topic Development」、自動採点システムでレベルが2から4までのモデル英文を「典型事例」として提示して自分の英文と比較させることが、内容を深化させる方法を学生が自ら学ぶ機会となったと考えられる。Appendix Iに、習熟度別の6つのクラスにおける前期始め・後期末でTopic Developmentが改善しているエッセイを掲載した。

リサーチクエスチョン(2)「ライティング評価ループリックと、ライティングの内容の質を測る自動採点システムのサンプル英文のフィードバックについて、学生はどのように感じたか」については、4項目の自由回答式アンケートから得られた学生のコメントについてテキストマイニングにより内容分析を行った(図5~8)。

まずループリックの役に立った点として、多くの学生がループリックの指定文法エラー項目、ディスコースマーカー項目が役立ったこと、ループリックで自分の間違いやすいミスや正しい使い方を確認することができたことを挙げている。学生に配布したループリックには、表だけでなく指定文法エラーの誤りの例やディスコースマーカーの例などすべての項目の解説が網羅されているが、これらの記述がループリックとともにライティング力向上に役立ったと考えられる。また、ループリックでライティングテストの減点箇所が一目で分かるようになっていたため、減点されないようにするにはどこに気を付けるべきかを意識できるループリックであったことが評価されていることが確認された。

次にループリックの感想としては、ループリックで点数につながるポイントや正しくない文の例を確認できることで、実際に文章を作るときに気を付ける点が明確になったことを評価する感想が多くみられた。特にライティングに苦手意識を持っている学生においても、ループリックがあることで間違いやすいエラーを知ることができるため不安を軽減できたという感想がみられ、習熟度の低い学生にも使用しやすいループリックとなっていることがわかった。今回のループリックの導入はおおむね学生のライティング力向上に貢献できたことが確認できたが、使用上の課題も見つかり、次年度のループリック作成に反映させ改良していきたい。

自動採点システムを利用した感想としては、英文の内容、文法、スペルの誤りに気づき、英文を書き直すうえで役に立ったことが挙げられている。また自分の英文のレベルが自動的に点数化されることが書く自信につながっていることも確認された。瞬時に簡単に評価されることが

モチベーションにつながったという感想もあり、自動採点システムの今後の可能性を感じることができた。一方、自動採点システムの使い方を理解することが難しかったという感想もみられたため、さらに使いやすいシステムへの更新を試みたい。

自動採点システムのフィードバックとして得点とともに表示される先輩のモデル英文についての感想では、モデル英文の充実した分量、オリジナリティ、具体例や理由、ディスコースマーカーの使い方、書く内容のアイデア、文法の使い方など、学生が多くのヒントを得たことが書かれており、良質のモデル英文が学生の英文ライティング力向上に大きな影響を与えたことがわかる。同じ大学の先輩という身近な存在が実際に書いた生きたお手本であることも、学生のやる気につながったのではないかと推察される。自動採点システムのフィードバックとして、過年度の学生の書いた実際の英文を「典型事例」として用いることが、「学習促進効果」のあるフィードバックとなることは学生の感想からも確認することができた。今後も、学生の評価力と分析力を向上させる良質なモデル英文をフィードバックの中に取り入れていきたい。

今回初めて導入したライティングテストのためのルーブリックと自動採点システムのフィードバックに関する学生のアンケート結果から多くの示唆を得ることができた。本授業で使用したルーブリックは、目標を可視化し学生の学習促進を意図して授業の内容に合わせて作成したものである（Appendix II）。学生は教師の予想以上にこのルーブリックをライティングテストの準備のために使用しており、これが「形成的評価」に役立つ結果をもたらしているといえるだろう。

リサーチクエスション (3) 「学生の英語を書く自信はどのように変化したか」については、表 12 および図 9 が示すように、5 段階で事前に 76% が第 1 段階（英文を書くことは苦手だし全く自信がない）を選んでいたので事後では 28% に減少し、一方で第 2 段階以上が増加して、第 4 段階（英文を書く自信が付き、機会があれば書いてみようと思っている）が事前 2% から事後 13% まで増えている。ルーブリックや「一行日記」によるライティング指導、英文を書く機会、自分の英文を自動採点システムでチェックする機会、過年度の学生の英文を典型事例として学ぶ機会が奏功したと考えることができる。

## 7. 終わりに

短期大学英語必修科目においてライティング評価のためのルーブリックを取り入れた指導、またライティングの「内容の質」を測る自動採点システムを学生に使用させた結果の実践報告を行った。年度初めと年度末に実施したライティングテストでは、語数、順序を表すディスコースマーカー、その他のディスコースマーカー、be 動詞エラー、because 断片文エラー、for example エラー、Topic Development いずれにおいても、大幅な改善が見られた。また学年末に実施した学生アンケートでは、ルーブリック、自動採点システム、過年度の学生の英文の典型事例いずれにおいても学生の英文ライティング力向上のために有効に機能したと推測で

きるコメントが得られた。また「英語を書くことについての自信」がある程度高まったことが確認された。今回の成果と課題を踏まえて、次年度以降に向けてルーブリックと自動採点システムの改善を図り、調査を続けていきたい。

## 注

1. Integrated English は、短期大学の全学必修英語科目で、1年前期に Integrated English a (1年前期)、Integrated English b (1年後期) を開講している。前後期とも週2コマの授業で、そのうち1コマは日本人教員、もう1コマは外国人教員が担当する。
2. 「形成的評価」は、ブルーム (アメリカの教育心理学者) の提唱した「完全習得学習 (マスタリー・ラーニング)」の考え方を背景としており、「子供の学習や教師の授業方法、あるいはカリキュラムなど、教育課程の途中において行われている活動の改善を目的としている (西岡他, 2015, p. 53) .
3. KH Coder とは、計量テキスト分析またはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである。

## 参考文献

- 安藤輝次. (2014). ルーブリックの学習促進機能. *關西大學文學論集*, 64 (3), 1-25.
- 石井雄隆・近藤悠介. (2020). 「教室における指導と自動採点」石井雄隆&近藤悠介 (編)『英語教育における自動採点 -- 現状と課題』(pp.117-130). 東京: ひつじ書房.
- 岩田貴帆. (2020). 協議ワークを取り入れたピアレビューによる学生の自己評価力向上の効果検証. *大学教育学会誌*, 42 (1), 115-124.
- 岩田貴帆. (2022, 6月). 学生の自己評価力を向上させうる教授法の特徴と課題の検討. 大学教育学会口頭発表, 岡山理科大学.
- 岩中貴裕. (2017). L2 ライティング指導における自動化されたフィードバックの役割. *中国地区英語教育学会研究紀要*, 47, 1-10.
- 江口真理子. (2012). 内容分析の手法を用いたライティング・ルーブリック具体化の試み. *総合政策論叢*, 24, 73-84.
- 小林雄一郎, & 石井雄隆. (2019). 英語ライティング指導のための自動フィードバックシステムの開発に向けて. *日本大学生産工学部研究報告. B, 文系 / 研究報告専門委員会 編*, 52, 7-15.
- 齋藤雪絵. (2017). 自動採点システムを使った英語ライティング学習. *立教大学ランゲージセンター紀要*, 38, 63-74.
- 坂本優子. (2019). 高校生を対象とした自由記述式英作文のルーブリックの開発とフィードバック効果の検証. Retrieved from <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/12/f39efdb1dc191c41facf439d7aecf19b-2.pdf> (2023年1月27日閲覧)

- 丹原惇, 斎藤有吾, 松下佳代, 小野和宏, 秋葉陽介, & 西山秀昌. (2020). 論証モデルを用いたアカデミック・ライティングの授業デザインの有効性. *大学教育学会誌 = Journal of Japan Association for College and University Education*, 42 (1), 125-134.
- 中央教育審議会 (2008) 学士課程教育の構築に向けて. Retrieved from [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf) (2023年1月29日閲覧)
- 中央教育審議会. (2013). 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて (答申)」用語集. Retrieved from [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf) (2023年1月29日閲覧)
- 中谷安男 (2020). *大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー*. 東京: 金星堂
- 西岡加名恵, 石井英真, 田中耕治. (2015). *新しい教育評価入門人を育てる評価のために*. 東京: 有斐閣コンパクト.
- 平林健治. (2016). CEFR-J A2レベルの自由英作文のルーブリックに関する研究. *日本教科教育学会誌*, 39 (2), 61-70.
- 松下佳代. (2014). 学習成果としての能力とその評価: ルーブリックを用いた評価の可能性と課題. *名古屋高等教育研究*, 14, 235-255.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2021a). 学生の習熟度別英文ライティング力向上の分析 ---- 弱点克服の重点的指導によるライティングの変化. *実践女子大学短期大学部紀要*, 42, 63-83.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2021b). 学生の英文ライティング力向上の分析 その2: 文法・構造・論理の重点的指導によるライティングの習熟度別変化. *Jissen English Communication*, 51, 14-46.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2022a). 英語初級学習者のパラグラフ・ライティング評価基準の確立を目指して. *実践女子大学短期大学部紀要 = Jissen Women's Junior College Review*, 43, 65-83.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2022b). 学生の英文ライティング力向上の分析 その3: 文法・構造・論理・内容の質の重点的指導によるライティングの習熟度別変化. *Jissen English communication*, 52, 13-48.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2023). 英語初級学習者のパラグラフ・ライティングのための自動採点システム開発の試み—英文の内容の質に特化した学習モデルの作成手法. *実践女子大学短期大学部紀要 = Jissen Women's Junior College Review*, 44, 39-67.
- 吉田武大. (2011). アメリカにおけるバリエールーブリックの動向. *関西国際大学教育総合研究所紀要叢書*, 4, 1-12.
- 脇田里子. (2016). ライティング・ルーブリックの実践. *同志社大学グローバル・コミュニケーション学会*, 21-50.
- Dikli, S. (2010). The nature of automated essay scoring feedback. *CALICO Journal*, 28 (1), 99-134.

- Iwanaka, T. (2016). Rewriting based on feedback: Automated-computer based feedback on forms and tailor-made feedback on content. *中国地区英語教育学会研究紀要*, 46, 61-70.
- Li, Z., Link, S., & Hedleheimer, V. (2015). Rethinking the role of automated writing evaluation (AWE) feedback in ESL writing instruction. *Journal of Second Language Writing*, 27, 1-18.
- Panadero, E., & Jonsson, A. (2013). The use of scoring rubrics for formative assessment purposes revisited: A review. *Educational research review*, 9, 129-144.
- Rust, C., Price, M., & O'Donovan, B. (2003). Improving students' learning by developing their understanding of assessment criteria and processes. *Assessment & Evaluation in Higher Education*, 28 (2), 147-164.
- Sadler, D. R. (1987). Specifying and promulgating achievement standards. *Oxford review of education*, 13 (2), 191-209.
- Stevenson, M., & Phakiti, A. (2014). The effects of computer-generated feedback on the quality of writing. *Assessing Writing*, 19, 51-65.
- Weigle, S. (2013). English as a second language writing and automated essay evaluation. In Shermis, M., & Burstein, J. (Eds.), *Handbook of automated essay evaluation* (pp. 36-54). New York: Routledge.

## Appendix I

以下は同一学生の1年前期始め, 後期末に書いたエッセイである。語数の増加とともに内容が深まっていることが確認される。学生英文のエラーも残したままの表記である。習熟度別で一番高いL1クラスから順にL6クラスまでの英文を紹介する。

### L1 クラス 前期初めライティング (Level 0)

i have two country where i would like to go  
 first one is portugal  
 because i heard portugal has the most beautiful bookstore in the world  
 i want to see how beautiful that is.  
 second one is italy  
 because my english teacher who from italy said you should go to italy.

### L1 クラス 後期末ライティング (Level 4)

The place I would like to visit most is United States. There are three reasons. First, I've never go to the United States. I want to go to the New York where is the capital city of America and I want to feel the mood of America in person to expand my insight. Second, I want to speaking with

native person. I've been studying English for almost four years. However, I've never tried speaking with native person who lives in America. So, I want to try my English skill. Finally, I want to review for my future. I'm planning to living in overseas in my future. And if I can go to the America I think I can learn many important things, for example, I can learn native English and communication skills. For these reasons the place I would like to visit most is United States.

#### L2 クラス 前期初めライティング (Level 0)

The place I would like to visit most is France.

The reason is two.

First, I want to see city and effel tower.

Their places are used in many movies and Anime.

So, I want to go to the same place.

Second,

#### L2 クラス 後期末ライティング (Level 4)

The place I would like to visit most is Fukuoka. There are three reasons. First, I can eat many delicious foods in Fukuoka. For example, I want to eat Mizutaki and Mentaiko. In addition, I want to eat seafood in that only locals know in Nakasu. Second, the famous anime festival was held in city of Kitakyusyu. I want to went to city of Kitakyusyu because my favorite voice actor joined the event. Third, I want to went to starbucks coffee at dazaifu tenmangu. The wood interior design is very artistic and valuable. So, I want to see the design. For these reasons, I would like to visit Fukuoka.

#### L3 クラス 前期初めライティング (Level 0)

The place I would like to visit most is houryuzi in Kyoto. because I have ever go to kyoto. I think why I will not go Kyoto in school trip. I will

#### L3 クラス 後期末ライティング (Level 4)

The place I would like to visit most is Hokkaido. There are three reasons.

First, I haven't been to Hokkaido. I want to experience the cold of Hokkaido. Also, I like night views. So, I would like to see the night view from Mt. Hakodate. I saw many pictures and wanted to go there.

Second, I would like to taste the food in Hokkaido. For example, Genghi Khan and fresh sushi. Especially, I want to eat fresh sushi.

finally, I want to go to a hot spring. Because, open air baths are my favorite.

For these reasons, I would like to visit Hokkaido.

L4 クラス 前期初めライティング (Level 1)

The place I would like to visit most is England. There are three reasons.

First, I like Harry Potter.

Second, I'm interested in British buildings.

There, There are a lot of place

L4 クラス 後期末ライティング (Level 4)

The place I would like to visit most is Canada. There are three reasons.

First, I love nature and Canada has a lot of it, for example, Niagara Falls, Maple Road and Moraine Lake are there. In addition, I would like to see Yellowknife in Northwest Province.

Second, I want to Vancouver because I would like to visit Vancouver, which is said to have an exceptionally livable climate in Canada. Moreover, I would like to visit Gas Town there.

Finally, I want to eat a lot of famous food. Especially, I want to eat lobster and poutine. In addition, maple syrup is also notable, so I want actually to go there and buy some.

For these reasons, I would like to visit Canada.

L5 クラス 前期初めライティング (Level 1)

The place I would like to visit most is in Osaka.

There are three reasons.

The first reason is I want to go to Universal Studio Japan.

The second reason is I want to visit there with my friends.

The third reason is I want to eat Takoyaki in Osaka.

L5 クラス 後期末ライティング (Level 4)

The place I want to go Italy. There are three reasons.

First, I want to go to Naplece. Naplece known as the city of gastoronomy. Also, it is the birthplace of the pizza, so I would like to try authentic pizza.

Second, I want go to Rome and take a walk. I like the movie ""Romence Holiday"", so I would like to go to the filming location. I especially want to go and see the Mouth of Truth in the Church of Santa Maria in Cosmidin.

Finally, I would like to go to Venice. Venice is said to be the city of water, and it is a very beautiful and history city. So I want to ride gondora.

For these reasons, I would like to go to Italy.



### L6 クラス 前期初めライティング (Level 1)

The place I would like to visit most is Okinawa.

There are three reasons.

I have never visited to Okinawa.

I want to eat Okinawa's food likes "Okinawasoba".

I want to swim in the sea.

### L6 クラス 後期末ライティング (Level 4)

The place I would like to visit most is Nagoya. There are three reasons. First, I want to visit Ghibli Park, witch opened this November. I am a big fan of Ghibli movies. Especially, I like "My Neighbor Totoro". In Ghibli Park, the buildings from that movie are recreated. Second, I want to go to eat a morning meal. Nagoya is famous for dishes made with miso, such as Misokatsu, but it is also famous for its many coffee shops, where you can enjoy cheap and delicious food in the morning. At a coffee shop, I would like to try the Ogura toast. In addition, I would like to try the Hitsumabashi. Third, I want to visit my brother. I have an older brother who is five years older than me. Since this year, he has been living apart due to his work. Since I rarely have a chance to see him, so I would like to urprise him by going to see him. For these reasons, I would like to visit Nagoya.

## Appendix II

以下の表は、2022年度短期大学1年次英語必修科目 Integrated English で使用したループリックである。内容の各項目のレベル別の語数については、平林（2016）を参考にした。

## インテグライティングテストのループリック(20点満点)

評価観点	評価項目	0点	1点	2点	3点	4点	評価
ディスコースマーカー	その他のディスコースマーカー	無し	1つ使用	2つ使用(違うもの)	3つ以上使用(違うもの)		/3
指定文法エラー	主語・動詞エラー	ある			無し		/3
	for example エラー	ある			無し		/3
	because断片文エラー	ある			無し		/3
内容の質	Topic Development	未完成、理由が2つ以下、単語羅列で意味不明(語数が何語でも0点)	理由はあるが、Detail文がない(45語以下)	Detail文が少しあるが、内容が限定的(46語以上75語以下)	Detail文が複数あり、トピックが発展し内容が深まっている(76語以上116語以下)	3の中で特に優れているもの(117語以上)	/4
句読点・段落の区切り方	句読点、大文字と小文字の区別の間違い	ある		無し			/2
	冒頭の字下げ、改行の場所	正しくない		正しい			/2
合計							/20

ライティングテストで必ず使う表現(この表現以外を使うと減点となります)

冒頭の文: The place I would like to visit most is .... There are three reasons.

順番のディスコースマーカー: First, Second, Finally,

末尾の文: For these reasons, I would like to visit ....

ライティングテストのルール(このルールを守らないと減点となります)

- 1) 語数を稼ぐために同じような内容を繰り返す。
- 2) 3つ目の理由を書いた後に、語数を増やすために別の話を書く。

指定文法エラー:

(1) 主語・動詞エラー

- × a. New year is very busy. (「OO」を主語と思い込む間違い)
- × b. I am Tapioca drink. (うなぎ文間違い)
- × c. Yokohama is many famous place. (haveの代わりにbe間違い)
- × d. I watched the movie is four weeks ago. (動詞が2つ間違い)
- × e. Takeshi was lived in Nerima. (とりあえずbeいる間違い)

(2) Because断片文エラー (英語ではBecause文のみはアウト)

× f. Because I want to study English there.

(3) for exampleエラー (英語では「For example, 名詞」はアウト)

× g. For example, pancakes and loco moco.

指定文法エラーの正解

Oa. We are very busy in the new year.

Ob. I'd like Tapioca drink.

Oc. Yokohama has many famous places.

Od. I watched the movie for weeks ago.

Oe. Takeshi lived in Nerima.

Of. I will go to Hawaii because I want to study English there.

Og. Hawaii has many delicious foods, for example, pancakes and loco moco. または

Og'. Hawaii has many delicious foods. For example, there are pancakes and loco moco.

段落の区切り方のルール

パラグラフの場合: 最初に字下げ(3~5文字)後、最後まで改行しない。

エッセイの場合: (200語以上書いた人は) 本論のFirst, Second, Finally, と結論(For these reasons,...)の出だしでも字下げし、改行する。

順番のディスコースマーカー

「第1に、第2に、第3に」 First, Second, Finally,

その他のディスコースマーカー

「実のところ」 Actually,  
「特に」 Especially, In particular,  
「例えば」 For example, for instance, such as  
「でも」 However,  
「それに加えて」 In addition,  
「そのかわりに」 Instead,  
「なぜなら」 because  
「さらに」 Moreover,  
「一方、対照的に」 On the other hand, In contrast,  
「その結果」 As a result, Therefore, Thus,

句読点のルール

(1) ビリオド × I was born in Nagoya . ○ I was born in Nagoya.

(2) 疑問符 × When did you see Mary? ○ When did you see Mary?

(3) コンマ (butやorの前)

× Susan cried for help but no one came.

○ Susan cried for help, but no one came.

× However I failed the exam. ○ However, I failed the exam.

(文頭のディスコースマーカーの後には必ずコンマを入れる)

(4) 大文字のルール (文のはじめ、固有名詞)

× the train arrived late today. ○ The train arrived late today.

× madrid is the capital of spain. ○ Madrid is the capital of Spain.